

バイオメディカルサイエンス専攻（修士課程）

平成24年度

シラバス

神戸大学大学院医学研究科

平成24年度 バイオメディカルサイエンス専攻 授業科目一覧

科目区分	授業科目名	単位数	コーディネータ	担当教員
必修科目	バイオメディカルサイエンスA	2	片岡	シラバス参照
	バイオメディカルサイエンスB	2	横崎	シラバス参照
	社会医学	1	西尾	シラバス参照
	生命倫理・安全	1	西尾	シラバス参照
	バイオサイエンス基本実習	4	各所属分野	各所属分野
	文献解析・プレゼンテーション演習	4	各所属分野	各所属分野
	バイオメディカルサイエンス特別研究	10	各所属分野	各所属分野
	<b>必修科目必要単位数</b>	<b>24</b>		
選択必修科目	シグナル伝達特論	2	中村	シラバス参照
	細胞分子医学特論	2	清野	シラバス参照
	薬物治療学特論	2	久野／平井	シラバス参照
	基礎解剖学	2	寺島	シラバス参照
	微生物感染症学特論	2	堀田	シラバス参照
	<b>選択必修科目必要単位数</b>	<b>6</b>		
<b>修了に必要な単位数</b>		<b>30</b>		

注1) 指導教員の承認が得られれば、本学他研究科の授業科目の4単位までを修了要件単位数に算入することができます。

注2) 医学物理士養成コースに関しては、カリキュラムが異なります(下記参照)。

【医学物理士養成コース】

授業科目		単位数	コーディネータ	担当教員
	科目名			
必修科目	共通特論Ⅰ 注)	2	南 博信	シラバス参照
	共通特論Ⅱ 注)	2	南 博信	シラバス参照
	共通特論Ⅲ 注)	2	南 博信	シラバス参照
	放射線治療計画基本演習	3	佐々木	佐々木、岡本、西村英輝他
	バイオメディカルサイエンス特別研究	10	指導教員	指導教員
	<b>必修科目必要単位数</b>	<b>19</b>		
選択科目	バイオメディカルサイエンスA	2	片岡	シラバス参照
	バイオメディカルサイエンスB	2	横崎	シラバス参照
	社会医学	1	西尾	シラバス参照
	生命倫理・安全	1	西尾	シラバス参照
	がんプロ腫瘍内科学特論	1	南 博信	シラバス参照
	がんプロ放射線腫瘍学特論	1	佐々木	シラバス参照
	がんプロ緩和医療学特論	1	西村 善博	シラバス参照
	がんプロがん薬物療法特論	1	平井	シラバス参照
	職種横断のケーススタディ演習	1	平井	平井、南、鈴木
	SPを用いた職種横断の臨床課題演習	1	平井	平井、南、鈴木、佐々木
	放射線治療計画臨床研究	3	佐々木	西村英輝
	<b>選択科目必要単位数</b>	<b>11</b>		
	<b>修了に必要な単位数</b>		<b>30</b>	

注) 神戸大学外で受講する授業

【BMS 専攻シラバス】

授業科目名	バイオメディカルサイエンス A			授業形式	講義		
配当年次	修士 1 年次	単位数	2 単位 = 30 時間	選択・必修	必修		
コーディネータ	片岡 徹	曜日・時限	前期 月曜日 13:20~16:40(または 14:50)				
担当分野名	分子生物学、感染病理学・病理病態学、細胞生理学						
担当教員名	片岡 徹(分子生物学)、林 祥剛(感染病理学・病理病態学)、南 康博、西田 満、遠藤 光晴、山形 薫(細胞生理学)						
学習到達目標	<p>分子・細胞レベルから個体レベルにいたる生体の構造と機能について学ぶ。(全体)</p> <p>体液調節・腎臓、呼吸、循環などの生体のホメオスタシスの維持に必須の機能について、分子・細胞、組織・器官から個体に至るレベルで学ぶ。(担当:片岡)</p> <p>細胞のもつ基本的な構造やその機能について理解する。癌を例として、健康とはなにか、病気とは何かについて概説し、病気の成り立ちを細胞、組織の異常として捉え、分子レベルの異常が肉眼像、臨床的な診断や治療にどのように反映されているかについて言及する(担当:林)</p> <p>Wnt シグナルなどを例に挙げ、それらについての基礎知識と分子細胞生物学的研究手法を習得する(担当:南、西田、遠藤、山形)</p>						
授業の概要		日付	時間	場所	演習内容	担当者	学部聴講
	1)	4/9 (月)	13:20~ 16:40	B 講義室	人のからだの構造	林 祥剛	×
	2)	4/16 (月)	13:20~ 16:40	B 講義室	癌の病理病態(1)	林 祥剛	×
	3)	4/23 (月)	13:20~ 16:40	B 講義室	癌の病理病態(2)	林 祥剛	×
	4)	5/14 (月)	13:20~ 16:40	B 講義室	体液と腎臓の機能と調節機構	片岡 徹	×
	5)	5/21 (月)	13:20~ 16:40	B 講義室	呼吸系の機能と調節機構 循環系の機能	片岡 徹	×
	6)	5/28 (月)	13:20~ 14:50	B 講義室	循環系の調節機構	片岡 徹	×
	7)	6/18 (月)	13:20~ 16:40	B 講義室	細胞極性・移動の分子機構および その異常と病態	西田 満	○
	8)	6/25 (月)	13:20~ 16:40	B 講義室	神経系の発生と分化の分子機構に ついて	遠藤 光晴	○
	9)	7/2 (月)	13:20~ 14:50	B 講義室	Wnt シグナル伝達:その生理と病理	南 康博	○
10)	7/2 (月)	15:10~ 16:40	B 講義室	DNA 損傷応答における細胞周期 チェックポイント制御機構について	山形 薫	○	
今年度の工夫	学生が自宅に帰ってからも復習ができるようなハンドアウトを作成し、配布する。						
参考書	<p>片岡担当分『オックスフォード・生理学』(丸善)</p> <p>林担当分『標準組織学総論・各論』(医学書院)</p> <p>南・西田・遠藤・山形担当分『Essential 細胞生物学 南江堂、細胞生物学 東京化学同人(永田和宏他、編)』</p>						
成績評価方法と基準	<p>講義の出席評価方法とレポートの課題・評価方法が各教員担当分によって多少異なるので、授業案内に記載する。さらに、各教員担当の最初の講義の際に詳細を説明する。最終成績は、各教員担当分の成績を平均して算出する。</p> <p>講義への出席状況および各講義の最後に小テストを行い総合的に評価し、評価が60点以上となったものを合格とする。(担当:片岡)</p> <p>講義への出席状況および出席試験により評価し、評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を“優”，その中でもさらに優れたものについては“秀”，講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないとは判断できる場合を“良”，講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を“可”とする。(担当:林)</p> <p>講義への出席状況や(場合によっては)レポート提出により総合的に評価し、評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を“優”，その中でもさらに優れたものについては“秀”，講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないとは判断できる場合を“良”，講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を“可”とする。(担当:南、西田、遠藤、山形)</p>						

備考	(メールアドレス) <a href="mailto:hayashiy@med.kobe-u.ac.jp">hayashiy@med.kobe-u.ac.jp</a> (林)、 <a href="mailto:minami@kobe-u.ac.jp">minami@kobe-u.ac.jp</a> (南)、 <a href="mailto:nishita@med.kobe-u.ac.jp">nishita@med.kobe-u.ac.jp</a> (西田)、 <a href="mailto:mendo@med.kobe-u.ac.jp">mendo@med.kobe-u.ac.jp</a> (遠藤)、 <a href="mailto:ykaoru7@med.kobe-u.ac.jp">ykaoru7@med.kobe-u.ac.jp</a> (山形)、 <a href="mailto:kataoka@people.kobe-u.ac.jp">kataoka@people.kobe-u.ac.jp</a> (片岡) (オフィスアワー)木曜日 16 時 30 分～17 時 30 分(林)、平日 14 時～17 時(南)、火曜日 17 時～18 時(片岡)
----	---

【BMS 専攻シラバス】

授業科目名	バイオメディカルサイエンス B			授業形式	講義		
配当年次	修士 1 年次	単位数	2単位 30 時間	選択・必修	必修		
コーディネータ	病理学 横崎 宏	曜日・時限	原則 木曜日・18:00～20:00				
担当分野名	病理学、動物実験施設、分子脳科学、シグナル統合学						
担当教員名	横崎 宏・仙波秀峰(病理学)、塩見雅志(循環器内科学分野疾患モデル動物開発部門、動物実験施設)、戸田達史・小林千浩・金川基 (分子脳科学)、的崎 尚・村田陽二(シグナル統合学)						
学習到達目標	<p>脳機能、発がん機構、発生等の哺乳動物の高次機能について、分子レベルで学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんとはどのような病気かを理解した後に、がんを作る生活習慣、がんの発生・増殖・進展の分子メカニズム、がん細胞と間質の相互作用について解説する(担当:横崎、仙波、非常勤講師)</li> <li>・医学における動物実験の成果と必要性およびそれを支える適正な動物実験について解説する(担当:塩見、非常勤講師)</li> <li>・先端のゲノム科学の潮流とその医学・生物学的成果・応用について例を挙げながら学習する。(担当:戸田、小林、金川、非常勤講師)</li> <li>・多細胞生物の機能を制御するシグナル機構とその破綻による疾患の発症について例をあげながら解説する。(担当:的崎、村田)</li> </ul>						
授業の概要		日付	時間	場所	演習内容	担当者	学部聴講
	1)	4/19 (木)	18:00～ 20:00	第二講堂	組織型と分子型からみた胃癌の治療戦略と今後の展開	安井 弥 (広島大学)	○
	2)	5/10 (木)	18:00～ 20:00	第二講堂	ゲノム科学的手法を用いた疾患遺伝子の探索	小林千浩	○
	3)	5/17 (木)	18:00～ 20:00	第二講堂	疾患原因遺伝子の機能解析に基づいた発症機序の解明と治療法	金川 基	○
	4)	5/24 (木)	18:00～ 20:00	第二講堂	がん学の温故創新	樋野興夫 (順天堂大学)	○
	5)	5/31 (木)	18:00～ 20:00	第二講堂	GIST の病態解明と分子標的治療 (仮)	廣田誠一 (兵庫医科大学)	○
	6)	6/7 (木)	18:00～ 20:00	第二講堂	がんの発生、増殖、進展のメカニズム	横崎 宏、仙波秀峰	○
	7)	6/14 (木)	18:00～ 20:00	第二講堂	ヒトとチンパンジーの比較解析からわかるゲノム多様性	黒木陽子 (理化学研究所 横浜研究所)	○
	8)	6/28 (木)	18:00～ 20:00	第二講堂	チロシンリン酸化シグナルと病態 (1)	的崎 尚	○
	9)	7/5 (木)	18:00～ 20:00	第二講堂	細胞間情報伝達	村田陽二	○
	10)	7/12 (木)	18:00～ 20:00	第二講堂	チロシンリン酸化シグナルと病態 (2)	的崎 尚	○
	11)	7/19 (木)	18:00～ 20:00	第二講堂	がん微小環境と生物像(仮)	落合淳志 (国立がん研究センター東病院)	○
	12)	7/25 (水)	15:30～ 17:00	第二講堂	動物実験の必要性和適正な動物実験の実施	塩見雅志	○
	13)	7/26 (木)	15:30～ 17:00	第二講堂	ライフサイエンスを支える疾患モデルラットの研究開発	庫本高志 (京都大学)	○
	14)	7/27 (金)	15:30～ 17:00	第二講堂	トランスレーショナルリサーチとノーベル賞に貢献した WHHL ウサギ	塩見雅志	○
15)	9月中	未定	未定	実験動物に感謝する集い	未定	○	

今年度の工夫	学外からこの専門領域トップクラスの講師を招き、講義を行ってもらうことにより学生の研究意欲の向上をはかる。
参 考 書	The Biology of Cancer (Weinberg RA [ed], Garland Science)
成績評価方法 と 基 準	講義・セミナーへの出席状況およびレポート提出により判定する。 講義の出席評価法とレポートの課題・評価方法が担当教員によって多少異なるので、各担当教員の講義の際に詳細を説明する。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を“優”，その中でもさらに優れたものについては“秀”，講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でない場合を“良”，講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を“可”とする。
備 考	(メールアドレス) 横崎 宏(代表者): hyoko@med.kobe-u.ac.jp (オフィスアワー) 木 9:00～17:00(来室前に必ずアポイントメントを取る)

【BMS 専攻シラバス】

授業科目名	社会医学			授業形式	講義		
配当年次	修士 1 年次	単位数	1 単位 (15 時間)	選択・必修	必修		
コーディネータ	西尾久英	曜日・時限	前期 火曜日・18:00～19:30				
担当分野名	疫学分野						
担当教員名	西尾久英、上野易弘、川端真人、西村範行、森川悟、李明鎮						
学習到達目標	医学と社会の関わりを理解する。						
授業の概要		日付	時間	場所	演習内容	担当者	学部聴講
	1)	5/8 (火)	18:00 ~ 19:30	第2講堂	公衆衛生学概論	西尾久英	○
	2)	5/15 (火)	18:00 ~ 19:30	第2講堂	法医鑑定1	上野易弘	○
	3)	5/22 (火)	18:00 ~ 19:30	第2講堂	法医鑑定2	上野易弘	○
	4)	7/3 (火)	18:00 ~ 19:30	第2講堂	世界の疾病動向1	川端真人	○
	5)	7/10 (火)	18:00 ~ 19:30	第2講堂	世界の疾病動向2	川端真人	○
	6)	7/17 (火)	18:00 ~ 19:30	第2講堂	小児がん	西村範行	○
	7)	7/24 (火)	18:00 ~ 19:30	第2講堂	公害病	李明鎮	○
	8)	7/31 (火)	18:00 ~ 19:30	第2講堂	感染症	森川悟	○
今年度の工夫	学生が自宅に帰ってからも復習ができるようなハンドアウトを作成し、配布する。						
参考書	講義の中で適宜示される。						
成績評価方法と基準	講義への出席状況およびレポート提出により総合的に評価し、評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を“優”，その中でもさらに優れたものについては“秀”，講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を“良”，講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を“可”とする。						
備考	(メールアドレス) 西尾久英(代表者) : nishio@med.kobe-u.ac.jp (オフィスアワー) 西尾久英(代表者) : 月曜日 17:00～19:00 疫学分野研究室						

【BMS 専攻シラバス】

授業科目名	生命倫理・安全			授業形式	講義		
配当年次	修士 1 年次	単位数	1 単位 (15 時間)	選択・必修	必修		
コーディネータ	西尾久英	曜日・時限	前期 火曜日・18:00～19:30				
担当分野名	疫学分野						
担当教員名	西尾久英、平井みどり、楠信也、松浦正子、高岡裕						
学習到達目標	医学、医療に関わる倫理、安全について理解する。						
授業の概要		日付	時間	場所	演習内容	担当者	学部聴講
	1)	4/17 (火)	17:00 ~ 19:30	大講義室	動物実験講習会		○
	2)	4/24 (火)	17:00 ~ 19:30	大講義室	遺伝子組換え実験講習会		○
	3)	未定	未定	未定	RI 講習会		○
	4)	5/29 (火)	18:00 ~ 20:00	第2講堂	実験機器の安全な使用方法	三松千芳	○
	5)	6/5 (火)	18:00 ~ 19:30	第2講堂	薬害	平井みどり	○
	6)	6/12 (火)	18:00 ~ 19:30	第2講堂	医療安全	楠信也	○
	7)	6/19 (火)	18:00 ~ 19:30	第2講堂	チーム医療	松浦正子	○
	8)	6/26 (火)	18:00 ~ 19:30	第2講堂	医療情報	高岡裕	○
今年度の工夫	学生が自宅に帰ってからも復習ができるようなハンドアウトを作成し、配布する。						
参考書	講義の中で適宜示される。						
成績評価方法と基準	講義への出席状況およびレポート提出により総合的に評価し、評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を“優”，その中でもさらに優れたものについては“秀”，講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないと判断できる場合を“良”，講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を“可”とする。						
備考	(メールアドレス) 西尾久英(代表者) : nishio@med.kobe-u.ac.jp (オフィスアワー) 西尾久英(代表者) : 月曜日 17:00～19:00 疫学分野研究室						



【BMS 専攻シラバス】

授業科目名	バイオサイエンス基本実習			授業形式	実習
配当年次	修士 1 年次	単位数	4 単位 120 時間	選択・必修	必修
コーディネータ	各所属分野の分野長	曜日・時限	通年		
担当分野名	各所属分野				
担当教員名	各教員				
学習到達目標	修士論文作成のための研究において必要となる様々な基本技術を習得する。				
授業の概要	各専門分野の研究で用いられる基本技術の原理を解説するとともに実践的に体験させる。さらに自主的に反復させることで十分に習熟させる。				
今年度の工夫	研究に用いられる基本技術の操作だけでなく、原理を十分に理解させることに留意する。				
参考書	各教員の指示による				
成績評価方法と基準	基本技術の理解度を試問するとともに、実践における習熟度を確認し、これらを総合的に評価する。				
備考	(メールアドレス) 各教員 (オフィスアワー)				

【BMS 専攻シラバス】

授業科目名	文献解析・プレゼンテーション演習		授業形式	演習
配当年次	修士 1年次	単位数	4単位 60時間	選択・必修 必修
コーディネータ	各所属分野の分野長	曜日・時限	通年	
担当分野名	各所属分野			
担当教員名	各教員			
学習到達目標	研究に必要な文献情報を解析して十分に理解し、それらをまとめて明解に発表できるプレゼンテーション能力を養う。			
授業の概要	専門分野における英語原著論文や総説を読み、研究における論理構成と最新の知識を学ぶ。さらに、論文の内容を理解し、批評を加えつつ要約を発表して議論することにより、理解力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養う。			
今年度の工夫	プレゼンテーション技術向上のため、定期的に研究室内の発表会・討論会等を設ける。			
参考書	各教員の指示による			
成績評価方法と基準	文献解析における理解力とプレゼンテーション技術をもとに総合的に評価する。			
備考	(メールアドレス) 各教員 (オフィスアワー)			

【BMS 専攻シラバス】

授業科目名	バイオメディカルサイエンス特別研究			授業形式	実習
配当年次	修士 1-2 年次	単位数	10 単位 300 時間	選択・必修	必修
コーディネータ	各所属分野の分野長	曜日・時限	通年		
担当分野名	各所属分野				
担当教員名	各教員				
学習到達目標	修士の学位取得に向けた指導体制のもとに、課題について質の高い研究を遂行する能力を養い、研究成果をまとめた修士論文を完成させる。				
授業の概要	専門分野において実践的に研究を行う。未解決の課題に取り組みながら、専門的な研究手法を習得させるとともに、論理的に問題を解決する研究の進め方を身につけさせる。				
今年度の工夫	研究課題が段階的に遂行されるよう定期的な報告会を設定する。				
参考書	各教員の指示による				
成績評価方法と基準	研究に対する意欲、自主性、研究指導を受ける態度、研究遂行能力、論文の構成力と内容等をもとに総合的に評価する。				
備考	(メールアドレス) 各教員 (オフィスアワー)				

【BMS 専攻シラバス】

授業科目名	シグナル伝達特論			授業形式	講義		
配当年次	修士 1 年次	単位数	2 単位 30 時間	選択・必修	選択必修		
コーディネータ	中村俊一	曜日・時限	前期 月曜日 17:00～19:00				
担当分野名	脂質生化学、分子細胞生物学、神経情報伝達学、膜動態学、シグナル伝達学、生化学						
担当教員名	高井義美 下野洋平、齋藤尚亮、上山健彦、向井秀幸、匂坂敏朗、伊藤俊樹、力武良行、中村俊一、岡田太郎、梶本武利						
学習到達目標	細胞内シグナル伝達を理解し、分子レベルで生命現象及びその病態への理解を深める。						
授業の概要		日付	時間	場所	演習内容	担当者	学部聴講
	1)	4/16 (月)	17:00 ~ 19:00	第 2 講堂	スフィンゴ脂質を介するシグナル伝達(1) Cell signaling through sphingolipids (1)	中村 Nakamura	○
	2)	4/23 (月)	17:00 ~ 19:00	第 2 講堂	スフィンゴ脂質を介するシグナル伝達(2) Cell signaling through sphingolipids (2)	岡田/中村 Okada/Nakamura	○
	3)	5/7 (月)	17:00 ~ 19:00	第 2 講堂	リン酸化酵素を介するシグナル伝達 Cell signaling through protein kinases	梶本/中村 Kajimoto/Nakamura	○
	4)	5/14 (月)	17:00 ~ 19:00	第 2 講堂	小胞輸送によるシグナル伝達制御(1) Vesicle transport-dependent signal transduction (1)	匂坂 Sakisaka	○
	5)	5/21 (月)	17:00 ~ 19:00	第 2 講堂	小胞輸送によるシグナル伝達制御(2) Vesicle transport-dependent signal transduction (2)	匂坂 Sakisaka	○
	6)	6/4 (月)	17:00 ~ 19:00	第 2 講堂	細胞内シグナル伝達の基本的な機構(1) Basics of Intracellular Signal Transduction (1)	下野/高井 Shimono/Takai	○
	7)	6/11 (月)	17:00 ~ 19:00	第 2 講堂	細胞内シグナル伝達の基本的な機構(2) Basics of Intracellular Signal Transduction (2)	下野/高井 Shimono/Takai	○
	8)	6/18 (月)	17:00 ~ 19:00	第 2 講堂	人工生命 Artificial Life	向井/齋藤 Mukai/Saito	○
	9)	6/25 (月)	17:00 ~ 19:00	第 2 講堂	NADPH オキシダーゼ (Nox) ファミリーのシグナル伝達と関与する疾患 Signal transduction of NADPH oxidase (Nox) family and its related diseases	上山/齋藤 Ueyama/Saito	○
	10)	7/2 (月)	17:00 ~ 19:00	第 2 講堂	エンドサイトーシスの分子機構(1) The Molecular Mechanism of endocytosis (1)	伊藤 Itoh	○
	11)	7/9 (月)	17:00 ~ 19:00	第 2 講堂	エンドサイトーシスの分子機構(2) The Molecular Mechanism of endocytosis (2)	伊藤 Itoh	○
	12)	7/23 (月)	17:00 ~ 19:00	第 2 講堂	低分子量 G 蛋白質を介するシグナル伝達(1) Small GTPase-mediated Signal transduction (1)	力武 Rikitake	○
	13)	7/30 (月)	17:00 ~ 19:00	第 2 講堂	低分子量 G 蛋白質を介するシグナル伝達(2) Small GTPase-mediated Signal transduction (2)	力武 Rikitake	○
今年度の工夫	最先端の研究成果を講義に取り入れることにより、学生が研究に興味を持てる様に配慮している。						
参考書	特に指定無し						
成績評価方法と基準	講義への出席状況およびレポート提出により総合的に評価し、評価が60点以上となったものを合格とする。また、授業時間内に小テストを行う時はその結果も評価に加える。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を“優”，その中でもさらに優れたものについては“秀”，講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないとは判断できる場合を“良”，講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を“可”とする。						
備考	(メールアドレス) snakamur@kobe-u.ac.jp (オフィスアワー) 中村俊一 (月曜日、火曜日 14:00～18:00)						

## 【BMS 専攻シラバス】

授業科目名	細胞分子医学特論			授業形式	講義・演習		
配当年次	修士 1年次	単位数	2単位 30時間	選択・必修	選択		
コーディネータ	清野 進 教授 (細胞分子医学分野)	曜日・時限	前期 水曜日 17:30～(日毎に開始時間が異なるので注意)				
担当分野名	構造生物学、細胞生物学、遺伝学、細胞分子医学						
担当教員名	廣明秀一(構造生物学)、古瀬幹夫(細胞生物学)、泉 裕士(細胞生物学)、小田裕香子(細胞生物学)、井垣達吏(遺伝学)、清野 進(細胞分子医学)、南 幸太郎(細胞分子医学)、柴崎忠雄(細胞分子医学)						
学習到達目標	本授業は構造生物学、細胞生物学、遺伝学、細胞分子医学から構成され、それぞれの基礎、原理と生命科学研究における実践レベルまで理解する。						
授業の概要		日付	時間	場所	演習内容	担当者	学部聴講
	1)	4/11 (水)	17:30～ 19:30	第二講堂	構造生物学 1. タンパク質構造の基礎	廣明秀一	○
	2)	4/18 (水)	17:30～ 19:30	第二講堂	構造生物学 2. 立体構造決定法 X線とNMR	廣明秀一	○
	3)	4/25 (水)	16:30～ 18:10	第一講堂*	構造生物学 3. バイオインフォマティクスと分子グラフィクス	廣明秀一	×
	4)	4/25 (水)	18:20～ 20:00	第一講堂*	構造生物学 4. 分子モデリング	廣明秀一	×
	5)	5/23 (水)	17:30～ 19:30	第二講堂	細胞分子医学 1. 遺伝子の機能発現	南 幸太郎	○
	6)	5/30 (水)	17:30～ 19:30	第二講堂	細胞分子医学 2. 臓器の再生	南 幸太郎	○
	7)	6/6 (水)	17:30～ 19:30	第二講堂	細胞生物学 1. 細胞間接着(概論)	古瀬幹夫	○
	8)	6/13 (水)	18:00～ 20:00	第二講堂	細胞生物学 2. 細胞間接着(分子機構)	古瀬幹夫	○
	9)	6/20 (水)	17:30～ 19:30	第二講堂	細胞生物学 3. 細胞間接着(病態との関わり)	古瀬幹夫	○
	10)	7/4 (水)	17:30～ 19:30	第二講堂	遺伝学 1. 発生とがん	井垣達吏	○
	11)	7/11 (水)	17:30～ 19:30	第二講堂	遺伝学 2. 細胞間コミュニケーションによる生体制御	井垣達吏	○
	12)	7/18 (水)	17:30～ 19:30	第二講堂	細胞生物学 4. 細胞極性と非対称分裂	泉 裕士	○
	13)	7/25 (水)	17:30～ 19:30	第二講堂	細胞分子医学 3. 生体における分泌現象	清野 進	○
	14)	9/5 (水)	17:30～ 19:30	第二講堂	細胞分子医学 4. バイオイメージング	柴崎忠雄	○
15)	9/12 (水)	17:30～ 19:30	第二講堂	細胞生物学 5. 小胞体ストレス	小田裕香子	○	
今年度の工夫	講義では関連分野における最先端の研究成果の紹介も行い、学生の興味を引くとともに研究意欲の向上をはかる。4/25の2回は第一講堂*でバイオインフォマティクスと分子モデリングのPC実習を行う。						
参考書	講談社サイエンティフィック「タンパク質の立体構造入門、藤博幸編(2010)」 化学同人「やさしい原理から入るタンパク質科学実験法2 タンパク質をみる」 Alberts; Molecular Biology of the Cell						

<p>成績評価方法 と 基 準</p>	<p>出席、レポート等を総合的に評価し、評価が60点以上となったものを合格とする。</p> <p>構造生物学シリーズ 4 回については、2 回の PC 演習において実技を評価し、その他にレポート 1 部を提出すること。</p> <p>細胞生物学シリーズ 5 回については、最終回に課すレポートを提出すること。</p> <p>遺伝学シリーズ 2 回については、最終回に課すレポートを提出すること。</p> <p>細胞分子医学シリーズ 4 回については、各テーマごとにレポート(A4用紙1枚以内)を、9/20(木)16:00 (時間厳守)までに学務課医科学専攻教務学生係へ提出すること。レポートの内容は講義内容のまとめと感想などで形式は自由。</p>
<p>備 考</p>	<p>(メールアドレス)</p> <p>廣明秀一客員教授 <a href="mailto:hiroakih@med.kobe-u.ac.jp">hiroakih@med.kobe-u.ac.jp</a>、 古瀬幹夫教授 <a href="mailto:furuse@med.kobe-u.ac.jp">furuse@med.kobe-u.ac.jp</a>、 井垣達吏准教授 <a href="mailto:igaki@med.kobe-u.ac.jp">igaki@med.kobe-u.ac.jp</a>、 泉裕士助教 <a href="mailto:yizumi@med.kobe-u.ac.jp">yizumi@med.kobe-u.ac.jp</a>、 小田裕香子助教 <a href="mailto:oday@med.kobe-u.ac.jp">oday@med.kobe-u.ac.jp</a>、 清野進教授 <a href="mailto:seino@med.kobe-u.ac.jp">seino@med.kobe-u.ac.jp</a>、 南幸太郎准教授 <a href="mailto:kminami@harbor.kobe-u.ac.jp">kminami@harbor.kobe-u.ac.jp</a>、 柴崎忠雄講師 <a href="mailto:tshiba@port.kobe-u.ac.jp">tshiba@port.kobe-u.ac.jp</a></p> <p>(オフィスアワー)</p> <p>火曜日・木曜日、10:00–17:00 (廣明)</p> <p>火曜日、13:00–17:00 (古瀬)</p> <p>火曜日、10:00–17:00 (井垣)</p> <p>木曜日、13:00–17:00 (BTセンター) (清野)(南)(柴崎)</p>

【BMS 専攻シラバス】

授業科目名	薬物治療学特論			授業形式	講義		
配当年次	修士 1 年次	単位数	2 単位=30 時間	選択・必修	選択必修		
コーディネータ	久野・平井	曜日・時限	金曜日				
担当分野名	生化学・分子生物学系 薬物動態学						
担当教員名	久野、平井 他						
学習到達目標	薬物治療の分子メカニズム、薬物の分子設計およびゲノムとの関係、薬物投与設計、医薬品の開発など、基礎研究の成果を臨床の薬物治療に生かす方法論や実例について学ぶ。						
授業の概要		日付	時間	場所	演習内容	担当者	学部聴講
	1)	4/13 (金)	18:00~ 21:00	第2講堂	がん薬物療法の基礎/確認テスト	平井	○
	2)	4/20 (金)	18:00~ 21:00	第2講堂	がんと遺伝子/確認テスト	久野	○
	3)	4/27 (金)	18:00~ 21:00	第2講堂	Parkinson 病治療薬について/確認テスト	馬	○
	4)	5/11 (金)	18:00~ 21:00	第2講堂	重症筋無力症と自己抗体について/確認テスト	太田	○
	5)	5/18 (金)	18:00~ 21:00	第2講堂	糖鎖合成異常による疾患と治療/確認テスト	北川	○
	6)	5/25 (金)	18:00~ 21:00	第2講堂	薬物動態学的相互作用について/確認テスト	岩川	○
	7)	6/1 (金)	18:00~ 21:00	第2講堂	がん治療に生かす網羅的遺伝子・タンパク質解析/確認テスト	中村(任)	○
	8)	6/8 (金)	18:00~ 21:00	第2講堂	薬物動態とトランスポーターについて/確認テスト	平野	○
今年度の工夫	がん領域と神経・筋疾患を中心とした講義を行い、知識の定着を測るための確認テストを実施し、担当者が評価する。						
参考書	各担当教員の指示による。						
成績評価方法と基準	出席と確認テストの内容を総合的に評価する。						
備考	(メールアドレス) midorih@med.kobe-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜 17 時~20 時						

## 【BMS 専攻シラバス】

授業科目名	基礎解剖学			授業形式	講義・実習		
配当年次	修士 1 年次	単位数	2単位	選択・必修	選択必修		
コーディネータ	寺島俊雄	曜日・時限	月曜日 17:00～20:00				
担当分野名	神経発生学分野						
担当教員名	寺島俊雄、吉川知志						
学習到達目標	解剖学の基礎を講義と実習を通じて学ぶことにより、受講者は人体の基本的な骨格、心臓などの循環系、内臓学、中枢神経系、感覚器に関する基礎的な知識を獲得する。						
授業の概要		日付	時間	場所	演習内容	担当者	学部聴講
	1)	10/15 (月)	17:00～ 18:30	第二講堂	解剖学用語のなりたち	寺島	×
	2)	10/15 (月)	18:30～ 20:00	第二講堂	解剖学総論	寺島	×
	3)	10/22 (月)	17:00～ 18:30	第二講堂	骨学(1)	吉川	×
	4)	10/22 (月)	18:30～ 20:00	第三実習室	骨学実習(1)	吉川	×
	5)	10/29 (月)	17:00～ 18:30	第二講堂	骨学(2)	吉川	×
	6)	10/29 (月)	18:30～ 20:00	第三実習室	骨学実習(2)	吉川	×
	7)	11/05 (月)	17:00～ 18:30	第二講堂	脈管学	寺島	×
	8)	11/05 (月)	18:30～ 20:00	第三実習室	脈管学実習	寺島	×
	9)	11/12 (月)	17:00～ 18:30	第二講堂	内臓学	寺島	×
	10)	11/12 (月)	18:30～ 20:00	第三実習室	内臓学実習	寺島	×
	11)	11/19 (月)	17:00～ 18:30	第二講堂	中枢神経系(1)	寺島	×
	12)	11/19 (月)	18:30～ 20:00	第三実習室	脳実習	寺島	×
	13)	11/26 (月)	17:00～ 18:30	第二講堂	中枢神経系(2)	寺島	×
	14)	11/26 (月)	18:30～ 20:00	第二実習室	神経回路実習	寺島	×
15)	12/03 (月)	17:00～ 18:30	第二講堂	感覚器	寺島	×	
今年度の工夫	できるだけ講義と実習をペアにして実物を直接観察する機会を増やしました。						
参考書	基礎解剖学講義ノート(講義プリントを製本したものを配布します)						
成績評価方法と基準	講義と実習の出席状況、実習のチェックリストの提出により、総合的に合否を決めます。						
備考	(メールアドレス) ttera@med.kobe-u.ac.jp (オフィスアワー)月～金 9:30～19:00						



【BMS 専攻シラバス】

授業科目名	微生物感染症学特論			授業形式	講義		
配当年次	修士 1 年次	単位数	2単位	選択・必修	選択必修		
コーディネータ	堀田 博	曜日・時限	木 9:30-12:00				
担当分野名	微生物学						
担当教員名	概要参照						
学習到達目標	BMS 専攻に必要な微生物感染症学(ウイルス学、細菌学、真菌学、感染免疫学)の知識を修得する。また、時に応じて、微生物感染症学研究の最先端のトピックスに触れ、生命科学研究における微生物感染症学の意義と展望について学ぶ。						
授業の概要		日付	時間	場所	演習内容	担当者	学部聴講
	1)	10/4 (木)	9:30~ 12:00	共同会議 室	ヘリコバクターピロリ感染症	東 健	○
	2)	10/11 (木)	9:30~ 12:00	共同会議 室	HIV	亀岡正典	○
	3)	10/18 (木)	9:30~ 12:00	共同会議 室	麻疹及びその他のパラミクソウイルス感染症	伊藤正恵	○
	4)	10/25 (木)	9:30~ 12:00	共同会議 室	性感染症	荒川創一	○
	5)	11/1 (木)	9:30~ 12:00	共同会議 室	腸チフス	白川利朗	○
	6)	11/8 (木)	9:30~ 12:00	共同会議 室	ヘルペスウイルス感染症	森 康子	○
	7)	11/15 (木)	9:30~ 12:00	共同会議 室	マラリア	川端真人	○
	8)	11/22 (木)	9:30~ 12:00	共同会議 室	ウイルス性下痢症	近平雅嗣	○
	9)	11/29 (木)	9:30~ 12:00	共同会議 室	C 型肝炎	勝二郁夫	○
	10)	12/6 (木)	9:30~ 12:00	共同会議 室	インフルエンザ	新矢恭子	○
	11)	12/13 (木)	9:30~ 12:00	共同会議 室	ウイルス感染症の予防と治療	堀田 博	○
今年度の工夫	この専門領域トップクラスの講師を招き、講義を行ってもらうことにより学生の研究意欲の向上をはかる。						
参考書							
成績評価方法と基準	講義への出席状況およびレポート提出により総合的に評価し、評価が60点以上となったものを合格とする。評価の目安は、講義の内容を十分に理解して知識を取得し、意欲的に講義に参加したと判断できる場合を“優”，その中でもさらに優れたものについては“秀”，講義の内容はよく理解したが、積極性が十分でないとは判断できる場合を“良”，講義内容について最低限の基礎知識は習得したと判断される場合を“可”とする。						
備考	(メールアドレス) hotta@kobe-u.ac.jp (オフィスアワー)						